

山笠の題材になった逸話をご紹介

## 猛将・加藤清正の虎退治



**豊** 巨秀吉より朝鮮出兵を命じられた加藤清正。その時、清正の陣営近くに虎が出没し、馬を連れ去られたり、家臣を殺されるということが相次ぎました。度重なる虎の襲撃に清正は激怒し、山狩りを行います。そのうち一匹の虎が茂みから飛び出して来ました。清正は大きな岩の上から、自分の槍で虎の喉元をついて仕留めます。愛用する十文字の槍はこの時片方の刃を折られてしまったという伝承があり、「片鎌槍」と呼ばれるようになりました。



加藤 清正 Kiyomasa Kato

肥後熊本藩初代藩主。幼少より豊臣秀吉に育てられ、猛将と呼ばれるまでに成長。熊本城をはじめとする築城の名手であり、領地統治において手腕を発揮。現代でも「清正公さん」の愛称で親しまれる。

鍋島 直茂 Naoshige Nabeshima

肥前佐賀藩の藩祖。豊臣秀吉の九州征伐を助け、その功により実権を掌握。朝鮮出兵で清正と共に活躍した人物の一人。江戸中期の武士道書「葉隠」の登場人物としてもその名が知られている。



力強さと美しさをまとった

悪疫退散を願う、新時代の山笠

天井に届くほど縦横に広がる飾り山は幅5m、奥行6m、高さ7mの壮大なスケールを誇ります。清正の家紋である「蛇の目文」が入った旗印を掲げ、意気揚々と戦いに挑む総勢12体の人形と、実物にも劣らない迫力を見せる四頭の虎。他に類を見ない力強さが見る人の心を惹きつけます。



これまで祭りで見られなかった荘厳な山笠が、8月から10月末まで図書館・歴史資料館「ふくちのち」に展示されています。飾り山を制作したのは、町内に作業所を構える富田人形(弁城)祭事の中止で、伝統芸術に携わる事業者が幕を下ろす中、ついに富田人形が筑豊で唯一となつてしまいました。コロナ禍で伝統の種火が消えていく今、想いを未来につなぐための取組みとして今回の企画が実現したのです。

山笠の題材は有名な逸話として知られる「加藤清正の虎退治」。この山笠には、人形師・富田能央さんの新型コロナ終息への願いが込められています。山笠りで清正と虎が対峙する様子はまさに圧巻。精悍な目つきをした武者人形たちが緊迫の場面を盛り上げます。また、見れば見るほどに目を惹きつける数々の装飾。飾り山だからこそ細部までこだわり抜いたという豪華絢爛な山笠は、見る人を魅了してやみません。

過去と未来を紡ぐ特別企画 特集

# 福智飾り山展

Exhibition of YAMAKASA in Fukuchi town

コロナ禍で町の祭事が二年連続の中止となる中、図書館・歴史資料館「ふくちのち」に圧倒的な存在感を放つ荘厳華麗な飾り山が誕生。そこに込められた思いとは――

伝統と進化  
織り出す祭芸術